

経営評価シート

1. 団体の基本情報							
団体名	(公財)福岡県下水道管理センター			設立年月日	昭和63年3月25日		
所在地	福岡市博多区那珂4丁目5番1号						
出資総額	81,600千円		主な出資者	出資額	出資割合		
県出資額	40,800千円		福岡市	9,460千円	11.6%		
県出資割合	50.0%		本県市町	31,340千円	38.4%		
				千円	%		
設立目的等	流域下水道施設の維持管理の受託を行うとともに、広く県民に対し下水道に関する知識の普及・啓発を図り、また、下水道管理に関する調査研究を行い、もって広く県民の健康で快適な居住環境の創出及び公共用水域の水質の保全に寄与することを目的とする。						
主要事業の内容							
事業名	事業内容						
流域下水道施設の維持管理受託業務	御笠川浄化センター・宝満川浄化センター・多々良川浄化センター・遠賀川下流浄化センター・矢部川浄化センター・遠賀川中流浄化センター・福童浄化センター及び関連するポンプ場等の維持管理						
調査研究事業	処理水及び汚泥等下水資源の再利用についての調査研究						
普及啓発事業	施設見学、作文コンクール及び下水道展の実施、リーフレットの作成など						
収益事業	流域関連公共下水道の流入下水に関する計量証明事業、施設内の自動販売機事業(H22年度開始)						
事業実績に関する情報	単位	R1	R2	R3	R4	R5	備考
受託事業費	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,744	9,063,953	
放流水質の推移(BOD)	mg/L	1.3	1.7	1.6	2.1	2.6	
施設見学者数	名	6,617	0	48	550	1,882	
出前講座実施回数	回	7	0	0	4	7	
2. 団体の組織・人員情報							
代表者名	理事長 白岩 正憲	区分	県OB				常勤
常勤役員名	常務理事 松本 裕之	区分	県派遣				事務局長兼務
		H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1
常勤役員数(※)		2名	2名	2名	2名	2名	2名
職員数	常勤(正規)	36名	36名	36名	36名	36名	36名
	うち プロパー	-	-	-	-	-	-
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	18名	18名	18名	18名	18名	18名
	合計	54名	54名	54名	54名	54名	54名
増減の主な理由	増減なし						
3. 県関与の状況							
人的支援(常勤役員再掲)(※)		H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1
	県派遣	36名	36名	36名	36名	36名	36名
	県OB	2名	2名	2名	2名	2名	2名
財政支出		H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	備考
	出資金	-	-	-	-	-	
	貸付金	-	-	-	-	-	
	補助・負担金	-	-	-	-	-	
	委託料	7,872,743千円	7,592,030千円	7,598,783千円	8,027,561千円	9,063,953千円	
4-①. 中期経営計画における改善に向けた取り組みの方向性(R4~R8)							
流入水質の悪化、環境(気温等)の影響による水処理状況の変化を常に監視することにより、的確に、また早期に、変化に対応し、良好な水質を維持する。また、水質を確認しながら、ばっ気風量、返送汚泥量の変更、さらには槽割の変更等を行い、流入水質の悪化や環境(気温等)等に起因する水質の悪化に逐次対応することにより、薬品等の使用を抑え処理コストの低減を図り、効率的な経営に努める。							

※役員改選を理由とする年度当初の一時的な減は反映していない。

4-②. 中期経営計画における改善目標の達成状況											
改善目標の区分(視点)	目標達成に向けた具体的な取組、戦略等	指標	単位	上段:計画 下段:実績						改善目標区分の達成に向けた2023年度(R5)の取組状況	
				2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)		
事業活動・住民サービス	①流域下水道事業の普及啓発を行うとともに、放流水質の保全に努める。	放流水質の推移(BOD) *注 生物化学的酸素要求量。有機物による水の汚染状態を表す指標。	mg/L		1.6	2.1	2.6				<p>・放流水質は継続して目標を達成している。</p> <p>・下水道展を多々良川、宝満川、福童、矢部川、遠賀川中流の各浄化センター開催できた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、施設見学者数が大幅に増加した。令和8年度目標達成に向け順調に推移している。</p>
		施設見学者等参加者数	人		48	550	1882			7,000	
		御笠川処理単価	円/m3		44	46	47	52		50	
	②施設の老朽化に伴い、修繕費が増大するが、省エネ運転や薬品使用量の低減、含水率の向上など維持管理費の削減に努めることで、単位当たりの処理コストの上昇を抑制する。	宝満川処理単価	円/m3		93	97	100	103		109	<p>・昨年に引き続き、負荷の変動を考慮して機器の発停を行うなど、使用電力の消費を抑えた。また、水処理方法を最適化(※)することにより、薬品使用量を抑える運転を行ったが、過年度から繰り越していた修繕工事を令和5年度に実施したことにより維持管理費が増加し、目標達成が出来なかった。</p> <p>※水質を確認しながら、ばっ気風量や、返送汚泥量の変更等を行い、流入水質の変化や環境(気温等)に起因する水質の変化に逐次対応する。</p>
		多々良川処理単価	円/m3		77	80	83	90		87	
		遠賀川下流処理単価	円/m3		96	100	110	117		103	
		遠賀川中流処理単価	円/m3		230	212	226	209		203	
		矢部川処理単価	円/m3		122	120	127	150		132	
		福童処理単価	円/m3		103	106	107	114		124	
		計画性等									
財務会計	①正味財産の充実、資産の運用により安定した財政基盤を継続する。	正味財産比率	%		6.2	5.7	5.4	4.7		5.9	<p>・決算日が休日であったため、資金決済が新年度扱いとなり、未収金や未払金が増加した。これにより総資産の額が増加した一方、正味財産の増加幅は穏やかであったため、正味財産比率が低下した。</p>
		収益事業収入	千円		1,273	1,260	1,291	1,271		1,450	
	②自主事業を拡大し、自主財源を拡充するとともに、コストを削減する。	人件費比率	%		2.7	2.6	2.6	2.3		2.5	<p>・自販機事業では安定的な売り上げを続けており、目標を達成することができた。</p> <p>・人件費比率は委託費全体の増により前年度比で低下し、令和8年度目標達成に向け順調に推移している。</p>
内部管理	①信頼性、透明性を向上させる。	競争入札件数割合	%		49.07	51	44.04	47.68		54	<p>・随意契約にて発注する物件については、必要最低限に抑えているものの、緊急対応を要する契約や、建造物、機器の構造上から特定の業者に依頼するほかない契約があるため、やむを得ず随意契約を締結している場合がある。令和5年度は前年度より競争入札の割合は増加したものの、目標は達成出来ていない。</p>
		②ワーク・ライフ・バランスの向上に資する制度の導入	年次休暇取得日数	日		-	16.7	15	16.3		
達成状況(まとめ)											
改善目標は概ね達成出来たが、一部未達成の項目もあった。											
<p>達成項目</p> <p>①放流水質の推移</p> <p>②施設見学者等参加者数</p> <p>③収益事業収入</p> <p>④人件費比率</p> <p>⑤年次休暇取得日数</p>											
<p>未達成項目</p> <p>①各浄化センター処理単価</p> <p>②正味財産比率</p> <p>③競争入札件数割合</p>											

5. 経営状況 (公益法人)							
項目	単位	R1	R2	R3	R4	R5	
【貸借対照表】							
資産合計	千円	1,783,734	1,517,243	1,685,296	1,937,051	2,719,344	
うち金銭債権	千円	-	646,602	602,000	-	1,365,573	
うち特定資産	千円	10,220	10,261	10,301	10,342	33,909	
負債合計	千円	1,681,652	1,414,031	1,580,998	1,832,367	2,590,946	
うち借入金額	千円	-	-	-	-	-	
うち県からの借入金額	千円	-	-	-	-	-	
正味財産合計	千円	102,082	103,213	104,298	104,684	128,398	
県債務保証額又は損失補償額	千円	-	-	-	-	-	
県損失補償債務残高	千円	-	-	-	-	-	
団体債務保証額	千円	-	-	-	-	-	
【正味財産増減計算書】 Sheet4 法人全体より転記							
経常収益 A	千円	7,874,536	7,594,205	7,600,967	8,029,201	9,065,628	
うち県財政支出額 B	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953	
内訳：補助金・負担金	千円	-	-	-	-	-	
内訳：委託料	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953	
うち最も多額な項目	項目名	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	
	千円	939	1,332	1,165	1,184	1,163	
経常費用 C	千円	7,874,466	7,593,073	7,599,881	8,028,940	9,042,065	
うち人件費総額 D	千円	213,259	208,441	203,979	207,020	211,080	
評価損益等合計額 E	千円	-	-	-	-	-	
経常増減額 F=(A-C+E)	千円	70	1,132	1,086	261	23,563	
経常外損益 G	千円	-	-	-	-	-	
法人税、住民税及び事業税 I	千円	-	-	-	-	-	
当期一般正味財産増減額 J=(F+G)-I	千円	70	1,132	1,086	261	23,563	
当期指定正味財産増減額 K	千円	△ 1	△ 1	△ 1	124	150	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953	
【財務指標】							
正味財産比率	%	5.7	6.8	6.2	5.4	4.7	
県財政支出率 (=B/A)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
人件費率 (=D/A)	%	2.7	2.7	2.7	2.6	2.3	
収益事業比率	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
受託事業外注費比率	%	57.9	59.2	59.0	57.4	53.8	
【団体毎の経営評価指標】							
御笠川処理単価	1 m3当たり	円	44	43	44	47	52
宝満川処理単価	1 m3当たり	円	105	101	93	100	103
多々良川処理単価	1 m3当たり	円	89	77	77	83	90
遠賀川下流処理単価	1 m3当たり	円	111	94	96	110	117
遠賀川中流処理単価	1 m3当たり	円	259	224	230	226	209
矢部川処理単価	1 m3当たり	円	141	124	122	127	150
福童処理単価	1 m3当たり	円	112	104	103	107	114
【常勤役職員の報酬・給与に関する状況 (R5年度)】							
常勤役員平均年齢	60.5歳	常勤役員平均年収	8,742千円	常勤職員平均年齢	48.8歳	常勤職員平均年収	7,911千円
【経営状況に関する各数値、指標の増減理由】							
【正味財産増減計算書】							
○過年度から繰り越していた修繕工事を令和5年度に実施したことに伴い、県委託料（経常収益）と修繕費（経常費用）が増加した。							
○令和5年度より複数年度にわたる修繕工事を可能とする特定費用準備資金制度を導入したため、令和5年度の県委託料（経常収益）について、令和5年度の修繕費を上回る額23,522千円を、一般正味財産増減額の増加額として計上している。これについては令和6年度に、修繕費の方が大きくなるため、同額が一般正味財産増減額の減少額として計上される見込み。							
【貸借対照表】							
○決算日が休日であったため、資金決済が新年度扱いとなり、未収金や未払金が増加した。これにより総資産の額が増加した一方、正味財産の増加幅は穏やかであったため、正味財産比率が低下した。							
6. 団体（経営責任者）の自己点検評価							
<p>昨年度に引き続き、施設の運転方法や機器の運転台数及び運転時間の削減等により使用電力量を抑制するとともに、定期修繕の周期や修繕内容を見直した。また、共通に使用する薬品等を一括発注し、更なる経費の削減に努めた。</p> <p>しかし、処理単価は、労務単価の上昇による施設の維持管理委託料の増加や前年度から先送りした修繕工事の実施により、目標を達成できなかった。</p> <p>今後は、これまでの取組を更に進めることにより目標の達成を目指す。</p>							
7. 外部専門家の意見							
・経営評価指標である1㎡当たり処理単価は、電力料金や資材費が高騰していることなどから、全7処理場で6処理場で前年度から増加している。引き続き、使用電力量、薬品使用量、修繕費等の抑制によるコスト削減に努めることが求められる。							
8. 経営評価委員会による経営評価結果							
<p>団体においては、燃料費単価の高騰等による処理単価が上昇する厳しい状況の中で、費用抑制を試行錯誤し、コスト削減に努められている。また、今年度は、施設見学の実施回数を増やし、コロナ禍にあるなかで自粛していた下水道展についてもコロナ禍以前と同規模で実施するなど、普及啓発活動の取組状況の改善努力が確認できた。</p> <p>今後とも、これまでに培ったノウハウを活かし、継続的な経営改善に努められたい。</p>							

(注) 表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。

5-②. 経営状況(内訳表)

項目		単位	R1	R2	R3	R4	R5
〔正味財産増減計算書〕							
法人全体 (①) (③)	経常収益 A	千円	7,874,536	7,594,205	7,600,967	8,029,201	9,065,628
	うち県財政支出額 B	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953
	内訳：補助金・負担金	千円	-	-	-	-	-
	内訳：委託料	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953
	うち最も多額な項目	項目名	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益	自動販売機事業収益
		千円	939	1,332	1,165	1,184	1,163
	経常費用 C	千円	7,874,466	7,593,073	7,599,881	8,028,940	9,042,065
	うち人件費総額 D	千円	218,539	208,441	203,979	207,020	211,080
	評価損益等合計額 E	千円	-	-	-	-	-
	経常増減額 F=(A-C+E)	千円	70	1,132	1,086	261	23,563
	経常外損益 G	千円	-	-	-	-	-
	法人税、住民税及び事業税 I	千円	-	-	-	-	-
	当期一般正味財産増減額 J=(F+G)-I	千円	70	1,132	1,086	261	23,563
	当期指定正味財産増減額 K	千円	△ 1	△ 1	△ 1	124	150
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L	千円	7,872,743	7,592,030	7,598,783	8,027,561	9,063,953	
公益目的 の事業会計 (①)	経常収益 A①	千円	7,864,823	7,561,497	7,570,080	7,994,364	9,025,936
	うち県財政支出額 B①	千円	7,864,444	7,561,118	7,569,517	7,994,174	9,025,717
	内訳：補助金・負担金	千円	-	-	-	-	-
	内訳：委託料	千円	7,864,444	7,561,118	7,569,517	7,994,174	9,025,717
	うち最も多額な項目	項目名	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益
		千円	348	348	348	159	175
	経常費用 C①	千円	7,865,145	7,561,158	7,569,772	7,994,646	9,003,000
	うち人件費総額 D①	千円	210,240	199,802	195,343	198,771	202,867
	評価損益等合計額 E①	千円	-	-	-	-	-
	経常増減額 F①=(A①-C①+E①)	千円	△ 322	339	308	△ 281	22,936
	経常外損益 G①	千円	-	-	-	-	-
	他会計振替額 H①	千円	311	563	543	526	310
	法人税、住民税及び事業税 I①	千円	-	-	-	-	-
	当期一般正味財産増減額 J①=(F①+G①+H①)-I①	千円	△ 11	902	851	244	23,246
当期指定正味財産増減額 K①	千円	△ 0	△ 0	△ 0	62	77	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L①	千円	7,864,444	7,561,118	7,569,517	7,994,174	9,025,717	
収益事業 等会計 (②)	経常収益 A②	千円	1,065	1,448	1,273	1,291	1,271
	うち県財政支出額 B②	千円	-	-	-	-	-
	内訳：補助金・負担金	千円	-	-	-	-	-
	内訳：委託料	千円	-	-	-	-	-
	うち最も多額な項目	項目名	事業収益	事業収益	事業収益	事業収益	事業収益
		千円	1,065	1,448	1,273	1,291	1,271
	経常費用 C②	千円	719	818	667	704	647
	うち人件費総額 D②	千円	-	-	-	-	-
	評価損益等合計額 E②	千円	-	-	-	-	-
	経常増減額 F②=(A②-C②+E②)	千円	346	629	606	587	624
	経常外損益 G②	千円	-	-	-	-	-
	他会計振替額 H②	千円	△ 311	△ 563	△ 543	△ 526	△ 310
	法人税、住民税及び事業税 I②	千円	-	-	-	-	-
	当期一般正味財産増減額 J②=(F②+G②+H②)-I②	千円	35	66	63	61	313
当期指定正味財産増減額 K②	千円	-	-	-	-	-	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L②	千円	-	-	-	-	-	
法人会計 (③)	経常収益 A③	千円	8,647	31,261	29,614	33,546	38,421
	うち県財政支出額 B③	千円	8,299	30,913	29,266	33,387	38,236
	内訳：補助金・負担金	千円	-	-	-	-	-
	内訳：委託料	千円	8,299	30,913	29,266	33,387	38,236
	うち最も多額な項目	項目名	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益	基本財産運用益
		千円	348	348	348	159	175
	経常費用 C③	千円	8,602	31,097	29,442	33,590	38,418
	うち人件費総額 D③	千円	8,299	8,639	8,636	8,249	8,213
	評価損益等合計額 E③	千円	-	-	-	-	-
	経常増減額 F③=(A③-C③+E③)	千円	45	164	173	△ 44	4
	経常外損益 G③	千円	-	-	-	-	-
	他会計振替額 H③	千円	-	-	-	-	-
	法人税、住民税及び事業税 I③	千円	-	-	-	-	-
	当期一般正味財産増減額 J③=(F③+G③+H③)-I③	千円	45	164	173	△ 44	4
当期指定正味財産増減額 K③	千円	△ 0	△ 0	△ 0	62	73	
正味財産増減額に含まれる県財政支出額 L③	千円	8,299	30,913	29,266	33,387	38,236	

(注) 表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。